



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C！

令和8年8月31日
横浜市立保土ヶ谷小学校
学校長 宮生 和郎

いつ起きるかわからない危機にどう向き合うか

校長 宮生 和郎

「災害は忘れた頃にやって来る」という言葉が、今の日本では通用しなくなっているように感じます。7月末には熊本での大地震、8月11日から12日にかけては台風が関東を直撃し、その直後には千葉で豪雨災害が発生しました。約2週間の間に相次いで起きた出来事は、日頃から備えていた私たちの想像をはるかに超える自然の猛威を実感させるものでした。災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今も避難生活を余儀なくされている方々が、一日も早く日常の生活を取り戻されることを願ってやみません。

実は保土ヶ谷小学校もこの台風による被害を受け、危機に直面しました。朝、連絡を受けて駆け付けると、裏山の大きな木が倒れ、給食室近くの擁壁に設置された鉄柵に引っかかった状態で止まっていたのです。これは一大事と思い、すぐに緑地を管理する事務所に連絡をしました。調査の結果、その鉄柵は土砂崩れにも耐えられるほど頑丈であり、すぐに崩れる心配はないとのことでした。鉄柵が十分な強度を備えていなかったら、給食室に大木が倒れこんでいたかと思うとぞっとしました。

裏山の急傾斜地に大木が斜めに生えていることについての危険性については、昨年度から管理事務所に伝えており、倒れる一週間ほど前にも改めて危険性を伝えていました。そのような中で起きた出来事だったため、管理事務所の担当者も「事前にできることがあったのではないかと悔やんでいました。急斜面に生えている大木は横浜市内だけでも相当数あり、危機管理の難しさを改めて感じました。

それでも私たちは、災害が多い日本で暮らしていかなければならないので、起きた出来事から多くのことを学び、将来に備えていかなければなりません。7月24日（金）から25日（土）にかけて、今年度も学童保育 kids hug 主催による防災体験キャンプが本校体育館で開催されました。参加した子どもたちは防災に関するさまざまなプログラムを体験し、避難生活を余儀なくされる事態が起きたときに何が必要なのか考える貴重な機会となったことと思います。特に実際に宿泊したご家族は、体育館で生活をするという厳しい環境を身をもって体験し、その大変さを実感されたのではないのでしょうか。災害は本当に突然襲ってきます。災害とどのように向き合っていくのかを考え、心構えという「気持ちの備え」と防災用品や避難方法といった「物の備え」の両面を見直し、更新する必要があると強く感じています。



【伐採後】

